

2022年度 第1回伊賀市総合教育会議 会議録

開催日	2022（令和4）年7月14日（木） 午後0時から
開催場所	府中小学校 2階 会議室
出席者	岡本市長、谷口教育長、野口教育委員、谷本教育委員、中教育委員、内藤教育委員、藤山企画振興部長、滝川教育委員会事務局長、東社会教育推進監、中釜学校施設室長、茶本学校教育課長、大岡いがっこ給食センター夢所長、奥井いがっこ給食センター元気所長、高橋府中小学校長、赤澤栄養教諭、中矢総合政策課長、奥沢総合政策課主査、川北教育総務課長、教育総務課藤岡係長
議題	食育について
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 給食試食2. 食育指導見学<ul style="list-style-type: none">5年 いわしのはなし2年 かぼちゃのはなし3. あいさつ（市長、学校長）4. 協議事項<ul style="list-style-type: none">（1）食育についての講義 【資料1】（2）市長部局から情報提供 【資料2、資料3】5. その他

【事務局長】2022年度第1回伊賀市総合教育会議を始めさせていただきたいと思っております。皆さまご多忙のところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。先ほどより、給食の試食と、食育指導をご覧いただきました。その感想などをいろいろお伺いさせていただけたらと思っております。本日のメニューですが、スマイル給食は日程の都合が合いませんでしたので、通常の給食をお召し上がりいただきました。それでは、初めに岡本市長からご挨拶させていただきたいと思っております。

【市長】こんにちは。（コロナの）第7波という中で、子どもたちの間で陽性が出てきて、学級閉鎖、学年閉鎖の懸念が出てきた中で、今日お集まりいただきまして、子どもたちの給食に先立って学校給食をいただきました。感想としては、おいしい物を作っている、栄養バランスもしっかり考えていただいているので大人も食べないといけないなあという感じです。我々の子どもの時代より、アレルギー対応など格段に心配りができた給食になっています。

本日のテーマは「食育」ということです。先の6月議会では、新型コロナウイルスやウクライナ情勢に伴う物価高騰に伴い、給食費の保護者負担を軽

減するために、国の交付金を活用して1食あたり20円の補助をおこなうことといたしました。児童生徒にとっての学校給食の果たす役割はますます重要になっていると考えています。

来年度から給食無償化も考えておりますが、小さな時からしっかりとバランスの取れた栄養状況の中で子どもたちには育ててほしいと思いますし、また子どもを巡る貧困は、傍目には見えにくいですが、結構な割合でしっかりとした食事を取れていない子どもがいる中で、必要なことです。これからの時代にとって教育に万々の経費を持ってくるということは、一つの投資でもあるし、保障でもあるし、やっつけていかなければならないと思います。

この後、栄養士の先生から食育の大切さについてご講義いただく予定ですが、市では、現在、「伊賀市食育推進計画」の中間案をお示ししているところですので、今後の学校給食のあり方や食育全般について、ぜひご意見をいただければと考えています。

また、毎年実施している市民意識調査（まちづくりアンケート）の結果がまとまりましたので、今日は、アンケート結果の概要についても説明させていただきます。

限られた時間でございますけれども、最後までどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局長】ありがとうございました。続きまして、本日食育、会議の会場となっております府中小学校の校長先生からご挨拶いただきたいと思います。

【校長】岡本市長様、教育長様、教育委員の皆さまをはじめたくさんの方々に府中小学校にお越しいただきました。お忙しい中ありがとうございます。本日はよろしくお願ひします。皆さまには日頃から教育活動にご支援ご協力いただきまして感謝をしております。また昨年度は、理科室のエアコン設置や、2階のトイレの改修をしていただきました。子どもたちも大変喜んでおりますし、学習環境を整えてもらうことができ感謝をしております。そして、給食費の保護者負担軽減の補助の話もありましたが、どこよりも早く決定していただき本当に助かっております。ありがとうございます。本校の子どもたちですが、今も見てもらいましたように、197名大変元気に過ごしております。また、久しぶりのプール水泳も大変喜んでおりました。あと1週間夏休みに入りますが、最後のまとめを頑張っているところです。

さて、本日は食育に関わりまして、伊賀市総合教育会議を本校で開催していただくことになりました。よろしくお願ひいたします。子どもたちは毎日給食をととても楽しみにしています。おいしい給食をいただけることはもちろんですけれども、栄養教諭から学年に応じた食育の授業をしてもらうことで、給食の時間がさらに豊かで楽しいものとなっています。

今日はそのような食育の指導に取り組んでいる栄養教諭からお話をさせていただきます。府中小学校に籍を置けていますが、普段はいがっこ給食センター元気で勤務をしております。

【事務局長】ありがとうございます。それでは早速ですが、協議事項に入らせていただきます。この総合教育会議ですが、市長と教育委員会が十分な意思の疎通を図り、協議、調整し、課題や方向性を共有しながら教育行政に取り組むものでございますので、よろしくお願ひします。協議事項の方は先ほど市長からもありましたが、本日食育について赤澤先生からご講義をいただきます。続きまして、市長部局の方から報告ということで、食育計画、まちづくりアンケートを協議させていただきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

【栄養教諭】府中小学校の食育や給食管理について、資料「府中小学校 食育の取り組み」を使ってお話しします。栄養教諭の職務内容は主に2つあり、1つが食に関する指導、2つ目が学校給食管理ということで、食に関する指導という栄養教諭としての仕事と、給食管理という栄養士としての仕事についてお話させていただきます。

1つ目の食に関する指導＝食教育についてですが、給食指導、教科としての指導、個別指導などいろいろありますが、給食指導としては、先ほど見ていただいたようなミニ授業を、給食の時間や、4時間目の終わりの時間に行っています。今年度よりタブレットパソコンを使って、毎日の1食分の給食写真を給食センターから伊賀市内の学校の先生のタブレットパソコンに送信しています。先生が見たい時にいつでも見られるようになっているので、盛りつけ方や量、食器の置き方について視覚で確認できるようになっています。

さらに月に2回程度、今日のような食育指導資料も給食の写真とつなげて配信をすることで、栄養教諭が話をしたり、栄養教諭がいなくてもその資料を使って指導することができるようになっています。内容は、旬や行事食の食べもの紹介や、各学年の教科に関連した献立の紹介をしています。例えば、今日の5年生の鰯の話は、社会科で水産業の勉強をしているので、その時期に合わせた内容、2年生の夏野菜の話は、生活科で夏野菜を育てているので、その内容に合わせています。その他、例えば伊賀市産の菜の花オイルを給食で使いますが、菜の花が咲いている時期に給食に菜の花オイルを使ったメニューを取り入れて、理科で菜の花の観察をしている5年生に、授業で観察した菜の花と給食の菜の花オイルがどのようにつながっているかという話をしたり、七夕には、4年生が理科で夏の大三角を観察していますが、大三角と織姫、彦星の話と行事食の話を絡めて、配信しています。その他給

食の時間に、個別に声かけ等も行っています。給食指導とは別に、教科の指導として、各クラス学期に1回、年間3回の食育の授業を行っています。

現在、伊賀市には栄養教諭が4名おり、各学校を回って指導を行っています。45分間の授業で、各学校の年間指導計画に沿って、担任と連携し、各学年の教科と連携した内容で行っています。例えば2年生では、生活科の野菜のはなし、5年では社会科の水産物について、3年生では、社会科で伊賀市のことを学ぶことから、伊賀のおいしい食べ物の内容の話の中でスマイル給食の紹介もします。農林振興課作成のDVDも使いながら授業をしたり、DVDの中で、「朝晩と昼の寒暖差、おいしい水、栄養ある大地でおいしい食べ物が育つ」という市長さんの映像も使いながら授業をしています。

また教科とは違いますが、昨年度はコロナ禍における黙食を逆手に取って、食レポ活動を行いました。ただ食べるだけではなく5感、5味、食感のオノマトペを使ってスマイル給食の食レポに取り組みました。5感を使って味わうこと、人においしさを伝えるために語彙力をつけること、スマイル給食の食レポをすることで伊賀市の食べ物を知ることがを目的に1年間取り組みました。資料に載せてありますのでご覧ください。

また、コロナ禍で調理実習ができない中で、食べることはできなくても作る技術を身に付けることは必要であるため、給食センターで捨てる野菜（キャベツの外葉、ニンジンのヘタ）を使って、切って、炒めて、盛り付けるといった実習を行いました。この経験をもとに家で家族のために作って食べてということも話しました。

食育については、「食育通信」を発行しています。忍者給食などについて載せてありますのでご覧ください。食に関する指導については以上です。

次に、給食管理についてお話しします。給食のメニューは、文科省の学校給食摂取基準や食品構成表をもとに献立を作成しています。摂取基準は3年から5年に1度改定があるのですが、改定の背景を探りながら献立作成をしています。例えば塩分は2008年に中学年で1食3g未満となっていたのが、2018年には2g未満になりました。小さい時からの食習慣が大事なので、給食でも減塩をとという時代になってきたので、できる限り減塩し、かつおいしく食べてもらえるようにメニューを考えています。

アレルギー対応は文科省のマニュアルに沿って伊賀市で統一した方法で、安全性を最優先しています。いがっこ給食センター元気では、現在11名と少なめですが、対応食材が多岐にわたるので、ほぼ毎日対応しています。

伊賀市では、安全に作る（異物や虫などの混入がないように気をつける）、時間通りに作る（喫食の時間から逆算して、できる限りできたての状態各学校に届くようにしている）、おいしく作る（あたたかものはあたたかく、冷たいものは冷たく、伊賀市では手作りを基本に献立作成を行っている。）この3点を大事にして給食を作っています。そして給食の献

立が、食育の生きた教材、給食の時間が最大の食育の時間となるように献立を作成しています。

限られた給食費の中で、献立作成を行っているのですが、これまで伊賀牛はなかなか使えなかったのですが、2年前の9月より、伊賀スマイル給食がはじまり、今年度も一人1ヶ月あたりおよそ280円の補助をしていただけるようになり、子どもたちに、伊賀市のおいしい食べ物を食べさせることもできるようになりました。また、「伊賀スマイル給食」という日を設定することで、子どもたちにも伊賀市の食材を知らせることもできるようになり、大変ありがたいです。子どもたちも、今日は伊賀スマイル給食の日やなあと、喜んでいて、浸透しています。

また、スマイル給食のレシピを農林振興課さんに送付し、伊賀市のホームページにあげていただけるようになったことで、保護者のみなさんにも浸透してきています。今年度はQRコードも作成していただいたので、それを全校に配布する給食だよりに掲載しています。

しかし、今年に入ったあたりから、長期化する新型コロナウイルスやウクライナ情勢に伴う物価の高騰が著しく、昨年度と同じ献立を立てても見積もり金額が高く、やむを得ず季節の果物をつけるのをやめたり、食材の使用量を抑えたり、牛肉を豚肉や鶏肉に変えたり、魚種の変更を行ってきました。しかし、そうすると、食材が偏ったり、見た目も少し貧弱になったりして、今後、これ以上の食材の高騰があると厳しいと思っていたところに、今回の国の地方創生交付金を活用した給食費の補助がいただけることになったのは大変ありがたいと感謝しております。これにより、多様な食材を使った献立作成が行えます。以上が学校給食管理についてです。

これからも伊賀市の子どもたちが学校給食を通して、食べるのが楽しい、食べるのが大事とってくれるような献立の提供や食に関する指導を実施し、健やかに成長できるよう食の面から支えていきたいと思っております。

【事務局長】ありがとうございます。せっかくの機会ですので、お話を聞いていただいて、また子どもたちの様子を見ていただいて、ご感想やご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

【教育長】スマイル給食は親にも伝えていただいているし、子どもたちにも評判いいですか。

【栄養教諭】とても楽しみにしていて、「今日スマイル給食の日やろ」と子どもの方から声を掛けてくれます。

【教育長】なぜですか。メニューが楽しみなんですか。

【栄養教諭】やはりお肉を楽しみにしています。

【教育長】楽しみにしているし、子どもたちも伊賀の物を食べられるというのが浸透してきています。どの学校でも同様ですね。

【市長】子どもたちから味付けについて、要望とか感想寄せらせることはありますか。

【栄養教諭】食材によっては子どもの嗜好に合わない物もありますが、味を知ってもらうという意味で、子どもたちにとっては好みではない物も出ていることはあります。

【市長】個人の好き嫌いは別として、おいしく作っていただいているので、特に不満はないということですか。

【教育長】食育の授業について子どもの反応はどうか。何か変化はありましたか。

【校長】伊賀産の食材を知ったり、栄養のバランスを知ったり、興味が出てくるということは、一生懸命食べたり、残さずに食べようとしたりする意欲につながっています。残食がだんだん減ってきていますので、一生懸命食べようという気持ちが大事だと思います。

【教育長】(今日のように) いわしでも食べやすくしてもらってあるから残食は少ないですか。

【栄養教諭】府中小学校には栄養教諭がいなかったのが(3年前まで)給食指導に回っていなかったが、ここ3年間で残食の量が目に見えて減っています。

【市長】自分たちは何を食べているか、どういう由来の物か、どういう性質のものかという認知認識が広がることは素晴らしいことだと思います。そこからまた子どもなりの興味が引き立てられる、将来にもつながっていく、非常にいいことだと思います。

【教育委員】食べるのは簡単ですが、どういう食材を、どんな工程で、どんな人が作っているのか、どんな栄養があるのかなど知ること、5感をフルに

使うこと、また残食も減ってきてありがたいです。子どもたちが食べることに對して、簡単ではなく、ありがたいという思いで食べてもらえるというのは、今日見せていただいてありがたいなと思いました。これからも引き続きよろしくをお願いします。

【教育委員】20円の補助は来年3月までということですが、その後はどうなりますか。無料化になっていくのですか。

【市長】そういうことです。小学校全部にするのか、幼稚園、保育園、中学校はどうするかなど詳細は詰めていきますが、小学校は無料化にしていきたいと思っています。

【教育委員】そうしていただけると保護者は助かります。1ヶ月4000円です（小学校4500円、中学校4900円）。先日財源が（確保が困難）という話でしたが。

【市長】財源はあります。将来の子どもたちに投資するように回せばいいのです。

【教育委員】伊賀の子どもにとっては大きなことです。

【市長】基金などにお金を積むだけが目的ではなく、ある程度積んだら、必要な所に使うということです。ふるさと納税なども。

【教育長】財源はあるということですので、無償化に向けてよろしくをお願いします。保護者の方にも20円補助しているということを理解してもらい、無償化も当たり前ということではなく、食育が大事だから無償化にするという意味を理解してもらい必要があると思います。

【市長】無償化の意味は、「ただ」にすることではなく、しっかりとした栄養をすべての子どもにつけて、健全な体を作ってもらうことが一番大事なことで、これが無償化の意義ということです。

【教育委員】2つのことをお話しします。味覚が十分でない小さい子どもたちに、新鮮でおいしい物を食べさせる、それがこれからの人生の食に対するベースになります。教えていただいたいろいろな工夫と栄養バランスのこと、旬のこと、いろいろ考えて、教えていただきながら食べさせてもらうというチャンスを子どもたちに与えていただいていることに深く感謝しています。

一番目を引いて、感心したのは、黙食を逆手にとって、味を言葉で表現させるというアイデアは素晴らしいと思います。教育の現場には、自ら発信するという子どもたちにさせる、しかしなかなか理科や算数など苦手な分野では発信するのは難しいですが、食べたものをどんなふうにおいしいか、どんなにおいか、どんな食感かはすごくみんなが発信しやすく、力を付けていただいています。目のつけどころが素晴らしいと感心しています。自分から表現するのは促してあげないと難しいが、食べたものをどんなふうに感じたかを表現するこのようなチャンスをもっと与えてあげてほしいと思っています。

もう一つは、いろんな食育の知識やチャンスを用意していただいているのに、残念ながら、今日は短い時間で、2ヶ所しかできていなく、他のクラスでも同じ効果を得られるように、先生だけでなく、教育委員会などみんなが一丸となって取り組むといいですね。今日はいい材料を用意していただいて、感動しました。

【市長】GIGA スクールのタブレットを利用して前のモニターに（食育の授業を）映したらどうかと思いました。そのクラスの子は聞けて、同じ学校でも他のクラスの子は聞けていないのはどうかと思うので。おいしさをどういふ言葉をもって表すか語彙力を高めたり、表現力をつけさせるのはすごくいいなあと思います。我々は夏休みに10句作りなさい（俳句の宿題）、あれが嫌でしたが、大人になってみると言葉に関する関心とか、季節に対する関心とか、他の地域の子どもたちと比べたら全然違うものを教えてもらって身に付けている訳ですから、そういう意味では芭蕉のふるさととしては、そうした表現力を食を通じて磨くということはいいことだと感じました。テレビでの「甘くておいしい」とか単純な表現ではなく、深みのある表現ができる訓練はいいことだなあと思います。

【教育委員】意外と子どもたちは繊細なことを言うものなんですね。

【栄養教諭】思ってもみない言葉を返してくれます。

【教育委員】こういう言葉を使って味を感じているということなんですね。すごいと思います。

【部長】食レポは毎食やってるんですか。

【栄養教諭】月2回の伊賀スマイル給食に日にやっています。

【部長】 1年生から6年生までですか。

【栄養教諭】 6年生だけで行っています。

【市長】 1年生から各学年やっていったら、発達過程が見えてきておもしろいかもしれないですね。

【部長】 さすがに6年生は上手に書いてある。1年生はその年齢で、同じ物を食べてどう感じるか、言葉自体はこんなに上手な表現はできないが、1年生なりの言葉で伝えていく。上手い下手ではなくて、おいしかっただけでもいい（ので、1年生から取り組むのもおもしろいのではないか）。

【事務局長】 では講義については終了し、市長部局からの情報提供ということでお願いします。

【総合政策課長】 伊賀市食育推進計画は、中間案を基に市民の皆さまからブックコメントを募集している段階です。目次には本計画の構成を記載してあります。第1章 概要の（2）基本理念・基本方針では4つの柱を示しており、食育は、ある部局が取り組むだけではなく、家庭、学校などの現場、地域などで生涯を通じて取り組む課題としています。第2章では、現状と課題ということで、健康の状況を載せてあります。肥満、やせが増加傾向にあるという資料を掲載し、（4）として食に関する課題をまとめてあります。「健康な体づくりに向けた課題」「食に対する心の育成に関する課題」「環境への配慮に関する課題」に加えて、4つ目として「食育を推進する体制づくりに向けた課題」として、「食育」に取り組むには市、学校、家庭、地域などが連携していかなければならないということを記載してあります。

第3章から具体的な食育の取り組み、場面ごとにどのような取り組みが必要か記載してあります。家庭の進める取り組みとして、乳幼児期の生活習慣、在宅時間の活用など、場面ごとに必要なことを記載しています。（2）では学校、保育園、幼稚園などでどのように食育を推進するかをまとめています。特に学校では、栄養教諭を中心に計画的に食育指導を行ってもらったり、アレルギーへの配慮も必要です。産業面では地産地消、伊賀スマイル給食の実施などについてもまとめています。同じように、幼稚園、保育園でも取り組みが必要です。地産地消のほか、地元の料理、郷土料理や伝統料理も子どもたちに知ってもらうことが大事であることを記載しています。（4）では生産者と一緒になって取り組む内容を記載しています。

市では、この取り組みは全庁的なものであり、教育委員会、産業部局、福祉部局などが中心とり、また外部の関係機関のみなさんと一緒に取り組むた

め、現在最終案に向けてご意見を募集しておりますので、お気づきの点がございましたらお寄せください。

【事務局長】 ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

【総合政策課長】 現在市民の皆さんの意見を集約している段階ですので、ご意見等ありましたらお願いします。10月くらいに最終案を庁内でまとめる予定です。

【総合政策課長】 続きまして、「伊賀市まちづくりアンケート（市民意識調査）調査結果報告書」について説明させていただきます。昨年度の総合教育会議では、伊賀市総合計画についてお話をさせていただきましたが、総合計画に基づく取り組みをしている中で、毎年市民の皆さんが、まちづくりの取り組みについてどのような思いを持っておられるかを聞かせていただいていますので、共有させていただきます。

以前はアンケート用紙を無作為抽出で郵送し、返送してもらう方法でしたので、時間がかかり、集約にも期間が必要でしたが、今回は Web 方式を取り、期間も短く、速報値も確認できる方法を採用しました。アンケート回答数の目標を 1000 としていますが、前回の約 800 より増加し、今回は 939 名から回答がありました。以前は若い世代からの回答は少なかったが、方式を変えたことで、そういう世代からも幅広く意見をもらうことができました。

まちづくりの 38 の取り組みに対しての満足度、参画度を質問しました。満足度の平均値が 30% 台と低かったが、R2、3 年度では 50% 以上となりました。教育分野では、生涯学習の分野は低く、歴史・文化遺産の分野は高い傾向があります。参画度の平均値はコロナ禍で低くなっています。

27 ページでは、教育人権分野の満足度と参画度の相関関係を表しています。それぞれの平均値より上となっている分野が多いですが、教育環境への参画度が平均より低く、生涯学習については、満足度、参画度ともに平均を下回っています。

29 ページでは、歴史・文化遺産、文化・芸術では満足度が平均より高く、スポーツはやや下回っています。定住・関係人口の分野では、ふるさと納税やシティプロモーション、移住者支援などが内容ですが、「関係人口」という言葉になじみがないので、力を入れて取り組みを行っている割には、高い評価をもらえていないのではないかと考えます。

昨年作成した総合計画を来年、再来年市民の皆さんがどのように感じておられるか、アンケートの結果を定期的に共有させていただきたいと思います。

【事務局長】 ご質問などございますか。

【総合政策課長】アンケート結果を受けて、庁内でも総合計画の進行管理を行い、どんな課題があるかなど把握し、必要に応じて教育委員のみなさんにも情報共有したいと考えています。

【事務局長】その他の事項として皆さま方から何かございますか。事務局からも特にございませので、終了とさせていただきます。今後ともお気づきいただいたこと、ご意見ご助言等いただけたらと思います。

14時00分終了